
エネルギー

鹿の子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エネルギー

【Nコード】

N8070P

【作者名】

鹿の子

【あらすじ】

大好きな「物語」へ向けてのメッセージ。

自分にとって物語の存在とは。自サイトでも公開中。

学校からダッシュで本屋に寄って、そのまま走って家に帰る。

玄関に鞆を投げ置いたまま、そのままリビングのソファに座る。
雑誌の入った紙袋を（そしてそのセロテープで止められた部分さえも）邪魔臭く感じ破くようにして本を出し、その目次に目を走らせ、目的の小説を読み出す。

「最終回」

その、予告されていた文字に、なんともいえない感情を抱えつつ話を読み出す。

ぐい、ぐいと物語の世界に入っていく。
その間、僕の耳には何も聞えない。

しーんと静まった空間の中で、僕はその物語と対峙する。

物語の中を泳ぐ。

途中、涙が零れてきた。

本の文字が滲む。

そんな自分の涙さえにも——つまり自分が読むということを守る
全てに——いらだちを感じる。
悔しい気持になる。

丁寧に読み進めたい。

でも、話の先を早く知りたい。

そんな贅沢な文句を心の中で言う。

本を読む時。

物語の世界にとっぷりと身を浸す時。

僕は色んなことから開放される。

世の中のこと。

学校のこと。

親のこと。

兄弟とのこと。

そして、肉体的、頭腦的なコンプレックスからも。

またこの世界に戻ってくるのは分かっているけど、読むことで心がどこかに羽ばたいていく、そんな時間が好きだった。

この物語もそうだった。

毎回、毎回。

連載が楽しみで。

結末を知りたいと思う気持ちと、まだまだこの物語の世界を読み続けたいと思う気持ちとの間で揺れた。

「……そっかあ」

ハッピーエンドが僕の目の前に広がる。

「よかったなあ」なんて言葉が自然と出てしまう。

主人公が何かを超えていく姿は、僕の心にも何かを示した。

はやる気持で物語を追いかけた。

読んで、共感して、自分の事にも置き換えたり。

—— 全く。本ばかり読んで。
そんな外野の声も聞える。

けど、そんな人たちに僕は言いたい。
読むことはエネルギーに繋がるんだと。
自分の明日を歩き出す、そんなエネルギーに。

「ほら、拓！ 鞆を玄関に置いたままにしないの！」
いつもの母の声がした。

さて、さて。

心には、満タンのエネルギー。

勢いつけて、リアルな世界に戻りましょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8070p/>

エネルギー

2011年10月8日12時24分発行